

笠岡学園の5領域 運動・感覚

「楽しい」活動を「毎日」積み重ねるうちに、いつの間にかできるようになっていたり、苦手なことにも挑戦しようとする姿が見られたり、日々子どもたちの身体や心は成長しています。ここでは5領域の中の“運動・感覚”にスポットをあてて学園での様子を紹介します。(担当：藤村)

身体の基盤を作るために、春や秋は散歩、夏はプール、冬はマラソンと年間を通して“体力づくり”を意識して取り組んでいます☆

楽しみながら体を動かすことで、自然と体力や筋力がつき、それは座って話を聞いたり、集中して活動に取り組めることにつながります。



引っ張る
押す. 渡る

片足立ち. バランスを取る

こぐ

トランポリンやブランコ、シーソーには、前庭覚や固有覚を刺激してバランス感覚や体のコントロール能力を養う等の効果があります。

取る
歩く. 蹴る

よじ登る
ぶら下がる



スライムやはるさめ、泡遊び、新聞遊び、落ち葉プールなどの感覚あそびでは、視覚、聴覚、触覚などの感覚を刺激したり、指先を使ってちぎったり、道具を使ったりすることで、巧緻性(指先や手先を器用に使ったり、体を上手に動かしたりする能力)を高めることができます。



五感(視覚. 聴覚. 嗅覚. 味覚. 触覚)だけでなく、固有覚(手足の状態や筋肉の伸び縮み、関節の動きを感じ取る感覚)や前庭覚(身体の動きや傾き、スピードを感じる感覚)に働きかける“運動・感覚”。土台となるこの領域は、子どもの発達にももちろん欠かせません。これからも子どもたちの興味や関心に目を向けながら、日々の療育の中で、子どもたちと“楽しい!”を共有しながら、“できた!”の自信に繋げ、“もっとしたい!”の意欲・要求を引き出していきたいと思います。